

# 総務企画 産業建設 常任委員会合同所管事務調査

調査日程

11月19・20日

調査先

- 「木の駅プロジェクト美和」の運営状況—常陸大宮市
- 庁舎建設における進め方及びスケジュール—福島県三春町
- 柳津西山地熱発電所—福島県柳津町

総務企画常任委員会

委員長 小林 盛

総務企画常任委員会と産業建設常任委員会では、11月19日・20日の日程で、茨城県常陸大宮市の「木の駅プロジェクト美和」、福島県三春町では、庁舎建設における進め方及びスケジュール、柳津町では、東北電力が運営している地熱発電所の3か所を調査しました。

## 「木の駅プロジェクト美和」の運営状況

常陸大宮市の美和地区は、人口が昭和40年に8000人を超えていたものが、現在は3600人まで減少してきています。商店数も130軒から60軒まで減少し、高齢化率は37%という状況にあります。

そこで、地域の山林所有者等に呼びかけ、林地残材を軽トラック1台3500円で買い取り、引き換えに現金ではなく地域で買ひ物ができる「モリ券」を発行し、地域の活性化に役立てています。

現在、当町においても、那珂川町木の駅プロジェクトとう実行委員会、事業を推進しているところです。

## 庁舎建設における進め方、スケジュール

福島県三春町では、庁舎建設における進め方とスケジュールについて説明を受けました。

三春町の庁舎は、昭和40年に建築され、東日本大震災で被災したことで、災害時に非常に危険な状態となりました。そのため、平成23年11月に、町民の代表や学識経験者などで構成される三春町公共施設整備方針検討委員会を立ち上げ、委員会で検討した結果、庁舎の建て替えが必要であるという中



三春町を調査

間報告がなされました。

それを踏まえ、町ではプロポーザル方式により設計業者を選定し、庁舎は地上4階建て床面積が3000〜3500㎡、総事業費が12億円ということでした。

議会としても、那珂川町の庁舎建設にあたって意見を求められる場合もあると考えられますが、三春町の庁舎建設方法等については、先進地の良い事例として参考にすると考えられます。

## 柳津西山地熱発電所

福島県柳津町にある柳津西山地熱発電所は、発電量が6万5000キロワットで約2万世帯が賄えるということでした。

地中のマグマで高温になった約200度から300度の熱水をくみ出し、その熱水から取り出した蒸気でタービンを回転させ発電を行い、その後、蒸気は地下に戻るという循環型の発電です。

地熱発電は、太陽光発電や風力発電と同様、二酸化炭素を排出しない環境にもやさしい自然エネルギーとして素晴らしいものと感じました。